

NEWS RELEASE

ニュースリリース

2026 年 7 月 15 日

株式会社 LinDo、Proveca 社が開発した小児慢性神経疾患に伴う流涎に対する Sialanar®の日本導入に関するライセンス契約を締結

～海外で承認された治療薬へのアクセスを日本でも実現しドラッグロス解消に貢献～

株式会社 LinDo（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：桂 淳、以下「LinDo」）は、Proveca Ltd.（本社：英国マンチェスター、共同創業者・CEO：Dr. Simon Bryson、以下「Proveca 社」）との間で、Proveca 社が開発したグリコピロニウム臭化物を含有する内用液（Glycopyrronium Bromide Oral Solution、海外製品名：Sialanar®、以下「本剤」）について、日本国内での独占的な開発・販売権に関するライセンス契約を 2026 年 7 月 14 日に締結しましたので、お知らせいたします。

本剤は、慢性神経疾患に伴う重度の慢性流涎（まんせいりゅうぜん）に対する小児用治療薬として Proveca 社により開発され、2016 年に EU で承認を取得して以降、欧州、南米、アジアなど世界 20 カ国で販売されています。その一方で、海外ではすでに治療選択肢のひとつとなっている本剤が、日本の患者さんには約 10 年にわたりドラッグロス^{*1}の状況にあります。

慢性流涎は、脳性麻痺をはじめとする慢性神経疾患を有する小児に認められることがあり、患者さんご本人の生活の質を低下させるだけでなく、ご家族をはじめとする介護者の方々の日常的なケア負担にも影響を及ぼします。さらに、唾液が咽頭側へ流れ込む後方流涎は、唾液の誤嚥につながる場合があります。誤嚥性肺炎などの重篤な呼吸器合併症のリスクとなることが知られています。

LinDo は、海外で開発・承認されているにも関わらず、日本では開発が進まず、患者さんがアクセスできない希少疾病や難病の領域における新薬について、日本で開発・販売する「ドラッグロス解消新ビジネスモデル」を構築・展開することを目的として設立された会社（シードインキュベーター）です。同社は、患者数や市場規模だけでは捉えきれない医療ニーズに向き合い、世界で生み出された医療の価値を必要とする患者さんやご家族へ届け、「ドラッグロス」の解消に貢献することを使命としています。

NEWS RELEASE

この度の Proveca 社との提携は、海外で既に使用されている本剤を導入し、日本の患者さんに新たな治療選択肢を届けるとともに、LinDo が目指すドラッグロス解消の実現可能性を実証するものです。

本契約締結に際し、LinDo 代表取締役社長・桂 淳は「私たちは Proveca 社との契約締結により患者さん本人の生活の質の向上やご家族をはじめとする介護者の方々の日常的なケア負担の軽減に貢献できることを大変うれしく思います。世界中で医療は進歩し続けています。しかし、世界で生み出された医療の価値が、必要とするすべての人々へ届いているわけではありません。私たちは、国や疾患の違いによって医療の選択肢が左右されない社会を目指しています。医療の価値は、必要とする人へ届いて初めて実現されます。本剤の国内開発を着実に推進し、早期の承認取得を目指すことで、必要とする患者さんにご家族に一日でも早くお届けできるよう、全力で取り組んでまいります。」と述べています。

また、Proveca 社の共同創業者・CEO である Dr. Simon Bryson は、次のように述べています。「日本における Sialanar®の開発および商業化の推進に向けて、LinDo と提携することを大変嬉しく思います。アンメットメディカルニーズの解決に取り組み、日本の患者さんの重要な治療法へのアクセス向上に尽力するという LinDo の強いコミットメントは、世界中の子どもたちに優れた医薬品を届ける当社のミッションと密接に結びついています。当社は Sialanar®を価値ある治療の選択肢として、すでに多くのグローバル市場で、子どもたちとご家族に提供してまいりました。この度の LinDo との提携により、この製品を日本の患者さんにお届けする機会を得られたことに、大きな喜びを感じています。本契約は、各地域における強力なパートナーシップを通じて、小児領域専門医薬品への世界的アクセスを拡大する当社のグローバル戦略推進に向けた新たな重要なマイルストーンです。」

*1)：「ドラッグロス」とは、海外で承認された革新的な医薬品が、日本国内での開発（治験）が着手されないために利用できない状態を指します。これは、従来の承認の遅れ（ドラッグ・ラグ）を超え、日本の患者さんが世界標準の治療を受ける選択肢そのものが失われるという、医療アクセスにおける極めて深刻な課題です。特に、がん、希少疾患、小児領域においてこの傾向は顕著で、解決が必要な社会問題として議論されています。

参照：

厚生労働省：「医薬品の迅速・安定供給実現に向けた総合対策に関する有識者検討会 報告書」
(https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_33548.html)

厚生労働省：「創薬力の強化・安定供給の確保等のための薬事規制のあり方に関する検討会 報告書」
(https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_39934.html)

NEWS RELEASE

株式会社 LinDo について

LinDo は、患者数や市場規模だけでは捉えきれない医療ニーズに向き合い、国や疾患の違いによって医療の選択肢が左右されない社会の実現を目指しています。世界で開発・承認されているにもかかわらず日本では開発されていない治療薬を導入し、日本で開発・販売することで、「ドラッグロス」の解消に貢献することを使命としています。必要とする人々へ適切に医療の価値が届くよう、国内外のパートナーとの連携を通じて、独自の「ドラッグロス解消新ビジネスモデル」を推進し、医療アクセスの向上に取り組んでいます。

コーポレートサイト：<https://lindosi.com/>

Proveca Ltd.について

Proveca Ltd.は、英国で創業したグローバル製薬企業です。世界各地で事業を展開し、小児領域におけるアンメットメディカルニーズに応えるエビデンスに基づく医薬品の開発、導入・ライセンス、および商業化を推進しています。現在は、中枢神経（CNS）および循環器疾患領域における小児向けの製品ポートフォリオおよび開発パイプラインを有しています。

コーポレートサイト：<https://www.proveca.com/>



写真左：Proveca Ltd.共同創業者・CEO Dr. Simon Bryson 写真右：株式会社 LinDo 代表取締役社長 桂 淳
